

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	総合実践英語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		専攻科一般科目・共通専門科目		対象学年	1		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		表現力をつける英作文（南雲堂）					
担当教員		田邊 英一郎					
到達目標							
1. 適切かつ自然な英語の文章を書くことができる。 2. 自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章を書くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		辞書を使えば、標準的レベルの英語のニュース記事が8割以上読解できる。		辞書を使えば、標準的レベルの英語のニュース記事がおおむね読解できる。		辞書を使っても、標準的レベルの英語のニュース記事がほとんど理解できない。	
評価項目2		高校レベルの語彙や文法を用いて、文法的に誤りのない英文を書くことができる。		高校初級レベルの語彙や文法を用いて、文法的に誤りのない英文を書くことができる。		英文を書く上で、中学校レベルの語彙や文法も十分活用することができない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		適切かつ自然な英語の文章が書け、自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章を書くことができように、教科書の全12章の演習を通して目標の達成を目指す。					
授業の進め方・方法		各章はA（基本英文法の演習と確認）、B（和文英訳演習）、C（パラグラフ演習）から成るが、学生は各章担当の当番を決め、当番学生は全問を授業前日まで演習し、授業担当者に提出する。担当者は受講生分をハンドアウトとして配布し、それを参考にしながら授業を進める。他の受講生は予習を原則とし、問題意識をもって演習と作文力アップにつとめる。					
注意点		英文和訳演習は各自の予習、取り組みによって成果が大きく分かれるので、ただ授業に出席するだけでは意味がない。授業開始時に各章の当番を決めるので、必ず出席すること。担当人数は受講人数が決まり次第決定する（例、受講生36人だと各章3人当番）。学科によってうまくいかない場合もあるが、余り不公平感がないようにしたい。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction, 提出課題演習		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		2週	Chapter 1: Meeting new people at college		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		3週	Chapter 2: Attending classes		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		4週	Chapter 3: Pastimes		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		5週	Chapter 4: Volunteer activities		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		6週	Chapter 5: Environmental problems		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		7週	Chapter 6: Cultural differences		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		8週	Reading Week		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
	4thQ	9週	Chapter 7: Studying abroad		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		10週	Chapter 8: part-time jobs		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		11週	Chapter 9: Youth and politics		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		12週	Chapter 10: Spending holiday abroad		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		13週	Chapter 11: Job hunting		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		14週	Chapter 12: Information Technology		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60％を理解できる。		
		15週	Exam		演習問題に於いて60％以上の正解率を示すことができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。		4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。		4	

				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	4	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0